

平成 28 年 2 月 1 日

南の風番外号

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

番外号です。1月23日（土）に、トッケイセキュリティ平塚総合体育館で、第36回神奈川県ミニバスケットボール決勝大会（チャレンジカップ）が開催されました。

決勝の結果から書きます。

男子は、横浜北部連盟の菊名クラブと小田原連盟の大窪クラブの対戦でした。立ち上がりはお互いが、相手の攻め手を封じたことと、緊張からシュートが決まらず膠着状態となりました。その後菊名がセンター7番を中心に確実に点数を重ね突き放します。大窪は4番、5番、8番が頑張りを見せますが、菊名の攻撃を抑えることが出来ませんでした。

《男子決勝の結果》 菊名クラブ 49 - 21 大窪クラブ

女子は、因縁の対決となりました。横浜西部連盟同士の、戸塚クラブと川上北ブルーデビルスの戦いでした。関東予選では、川上北が36対35の接戦で戸塚に勝ちました。今回も大接戦となり、第2延長までもつれたゲームは、戸塚が36対35で川上北を制しました。実力伯仲の好ゲームでした。川上北7番のポストプレーと、戸塚のオールコートマンツーマンディフェンスは超ミニバス級でした。

《女子決勝の結果》 戸塚クラブ 36 - 35 川上北ブルーデビルス

女子のゲームの感想です。「意地と意地のぶつかり合い」といった言葉がピッタリでした。同じ地区のチーム同士の関係で、手の内は知り尽くしている感じでした。

まずオフェンスです。両チームとも『自分たちの強み』で攻めていました。戸塚は1人ひとりのシュート力が持ち味でした。ペリメーター付近のシュートと果敢にペイントエリアを切り裂く、ドライブカットインが効果的でした。特に4、5、6番のドライブの際の一步の広さは目を見張りました。通常女子は、ドライブインの時にディフェンスを気にすることが多いのですが、戸塚の選手は身体接触を嫌がらずに攻めることができていました。また、サイズは川上北に劣るのですが、必ずオフェンスリバウンドに飛び込んでいました。ボールの軌跡を見て、落下点を予測することができていました。

一方川上北は、大黒柱の7番のポスト（168cm）を中心にオフェンスを組み立てました。7番は中でボールを持った時に、非常に落ち着いてプレーしていたのが印象に残りました。当然戸塚は7番を抑えにダブルチームでくるのですが、あわてることが少ないのです。「リングを見ること」「ボール保持」がしっかりできていました。そして特筆すべきは、ポストでステップしたり、フェイクを入れたりした後、一度リセット（体勢を整い直す）してジャンプシュートが打てたことです。ミニバスの選手でこのようにできる選手は少ないと思います。そしてさらに驚くことは、まだ5年生だということです。将来が楽しみな選手です。また、4番のゲームコントロール力と機を見てシュートに行く『状況判断力』も見逃すことができません。9+1+G+Bの基本が備わっている選手です。戸塚の厳しいディフェンスをうまくディスタンスをとりながらボールコントロールをしてコート全体を把握していました。

観戦された方は気づかれたと思いますが、オフェンスは『チームの強み』をどう生かすかがポイントです。『生かす術をどう構築して、ゲームでできるようにするか』がコーチの仕事です。

次にディフェンスです。戸塚のマンツーマンは前半と後半ではやや違うのですが、ディスタンスを詰めたプレスマンツーマンでした。前半より後半のプレスの方がタイトでした。またフットワーク&ハンドワークがよく鍛えられていました。「ボールマンを自由にさせないぞ」という意思がチームで徹底されていました。特に目を引いたのは、10番のボールマンディフェンスです。特に後半の川上北4番とのマッチアップは、迫力満点でした。相手のドリブルに対するアジャストが絶妙でした。ドリブルの読み、ボルトレースからのポインティング、方向変換等が抜群でした。そして何よりも凄さを感じたのは、「絶対守る。抜かれないぞ」という気迫が見ている側に伝わってくることです。驚くことにこの選手も5年生です。川上北のディフェンスは、『5人が協力して守る』ことが徹底されていました。ディスタンスを詰め過ぎずに、簡単に抜かれないように準備し時間を掛けさせるという作戦だったようです。選手全員が自分たちの役割を熟知し守っていました。私はミニバスの場合、『5人が協力して守る』ことは、大変重要なことだと思います。この南の風でも書きましたが、ミニバスの成長段階では、1人ひとりのディフェンス力をアップすることも大事ですが、『状況を判断してプレーする』はさらに大事なことです。この時期は、よく見て、判断してプレーできる選手をたくさん育てたいと思います。フットワークを鍛えることは、もう少し成長し筋力がついてからでも遅くありません。子どもたちの膝や足首、腰等は一度痛めてしまうと中々元には戻らないのです。これも『大切なプレーヤーズファースト』です。

いずれにしても両チームのディフェンスは、1人ひとりはもちろんのこと、チームとしてもよく訓練されたものでした。観戦された方やテレビ中継をご覧になった方は、たいへん参考になったと思います。

さてここで、私が考えるディフェンスの目的について書きます。

《ディフェンスの目的》

◎相手に得点を取られない

～ そのために ～

- 1 簡単にボールを運ばせない。(ボールダウンプレス)
- 2 相手の攻撃回数を減らす。
- 3 簡単にシュートを打たせない

1については、ボール運びに時間を掛けさせることです。ドリブル突破の阻止や意図的なパスの遮断が大切です。特にボールマンにプレッシャーをかけ、相手の思い通りのオフenseプレーをさせないことです。

2については、1と連動することが多いのですが、ターンオーバーを誘発させることです。パスやドリブルの方向を限定したり、バイオレーションをさせたりして攻撃の芽を摘み取ります。

3は、ボールがフロントコート入ってからのことです。簡単にボールを持たさないこと、さらになるべくゴールから遠い位置でボールを持たせるようにします。そして、シュートを打たれる場合もタイミングのいいシュートを阻止するようにします。

私は、ディフェンスが抜かれることやシュートを最終的に打たれることは仕方ないと考えます。ただ簡単にやられないことが大切だと思うのです。そのために、『チームとしてどう守るのか』ということコーチは常に考えるべきです。28年度から、15歳以下にマンツーマンディフェンスが完全導入されます。各チームで、実態に応じたマンツーマンディフェンスに取り組んでいただければと思います。